科目ナンバリング	U-LAS05 20002 LJ40						
授業科目名 <英訳>	文化人類学各論II Topics in Cultural Anthropology II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 風間 計博		
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2024・後期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

文化人類学的実践には、フィールドワークにおける文化的他者との遭遇は不可欠である。本講義では、近代人類学の黎明期より、文化的他者のなかで調査を行ってきた人類学者たちが、どのような視点から何をみて、何を考えてきたのかを具体的事例を提示しながら紹介する。

近年のコロナ禍により滞っているとはいえ、グローバル化した現代世界において文化的他者との接触が永続的に減じるとは考えられない。文化的他者との接触のあり方と、文化に不可避的に内在する政治性、接触によって不可避的に生じる軋轢について、文化相対主義と普遍主義、共生概念や多文化主義を俎上に載せて考える。

[到達目標]

文化人類学の黎明期からの学説史を理解し、文化相対主義等の基本概念を把握したうえで、身の回りにある様々な事象を考えるときに有効な人類学的思考を習得することを目的とする。また、現代世界における文化的他者との共存や対話の可能性について、論理的に思考する能力を養う。

[授業計画と内容]

下記のトピックについて、各1〜2回の時間を費やして講義する。 授業回数は総括とフィードバックを含め、全15回とする。
なお、状況に応じて、オンライン授業を行う可能性もある。

１．文化人類学の射程
　１-１．文化という桎梏
　１-２．普遍主義と他者への介入
　１-３．認識論と存在論

２．文化相対主義再考
　２-１．黎明期における文化相対主義
　２-２．相対主義概念の多様性
　２-３．文化相対主義の矛盾
　２-４．普遍性と相対性の近接

３．現代世界における相対主義
　３-１．自由主義と共同体主義
　３-２．共生概念の検討
　３-３．対話による共生の技法
　３-４．価値・開発・環境

４．総括―生政治と相対主義

文化人類学各論II(2)へ続く↓↓↓

文化人類学各論II(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業時に課す小レポート30%）および小試験（70%）による。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に提示した文献を読んでから、次の授業に参加する。ノートを読み返すのみならず、関連文献を自ら検索して読解し、理解を深める姿勢が求められる。

[その他（オフィスアワー等）]

講義室に収容可能な人数を上限として、受講者数を制限する。制限人数を超過した場合には、KULASISにおいてランダムに選抜する。